

# 交渉人 真下正義

2005(平成17)年4月25日鑑賞(東宝試写室)



監督=本広克行/原案=君塚良一/脚本=十川誠志/出演=ユースケ・サンタマリア/寺島進/國村隼/石井正則/金田龍之介/小泉孝太郎/柳葉敏郎/水野美紀/西村雅彦(東宝配給/2005年日本映画/127分)

……警視庁初の「交渉人」といい気になっていた真下正義に対して、ワケのわからない犯人からご指名が……。うまく交渉しないと東京の地下鉄が大爆破……。『スリル満点の大活劇』と言いたところだが、果たして大ヒットした『踊る大捜査線』1・2に続く3匹目のどじょうはいるのだろうか……？

## 東京の地下鉄とソウルの地下鉄

この映画で犯人(?)がターゲットとして選んだのは東京の地下鉄。網の目のように張りめぐらされた東京の地下鉄を集中管理するのは「TTR 総合指令室」。そして、その総合指令長が片岡文彦(國村隼)。したがってこの映画の舞台の多くはこの指令室内となる。

だが、さてよ……。この指令室のシーンはどこかで観たことがあるぞ、と思ったら、それは韓国映画『TUBE(チューブ)』(03年)に登場したソウルの地下鉄の統制室とほとんど全く同じもの(『シネマルーム6』225頁参照)。

この『TUBE』は、ソウルの地下鉄を乗っ取りその爆破をちらつかせることによってある要求を実現しようとする犯人とそれを追う刑事との対決を描いた手に汗を握る面白い映画だったが、さて、東京の地下鉄版は……？

## クモE4-600とは……？

この映画の主演はもちろんユースケ・サンタマリア扮する真下正義だが、影の

主役は最新鋭地下鉄実験車両の「クモE4-600」。これは広軌と狭軌の2種類に分かれている東京の地下鉄を、自動的に車輪間の幅を上げたり縮めたりすることによって自由に走行できるという夢の実験車両のこと。しかしこれは、どこまでがホントの話で、どこからが作り話なのか……？

さらに、犯人と電話で交渉をしている中、指令室内では真下と片岡との間で驚くべき会話が……。それは、政府要人用や軍事目的のために、一般に公表されている線路とは別の〇〇線が存在しているということ。ホンマかいな？

私としては、こういう、いかにもホントらしい設定をするのなら、もう少し厳格に科学的実証をしてほしいと思うのだが……？

### ネゴシエーター 日本初の交渉人は……？

ラッセル・クロウ扮する「人質交渉人」を主人公とし、メグ・ライアンが共演したハリウッド映画が『プルーフ・オブ・ライフ』(00年)。それ以前にもサミュエル・L・ジャクソンとケビン・スペイシーの2枚看板による『交渉人』(98年)もあったから、アメリカでは「人質交渉人」は既に定着した職業……？

法律知識を駆使して法廷闘争を展開するのが弁護士の仕事なら、交渉術を駆使して説得と納得によって事件を解決するのも弁護士の重要な仕事。したがってこの手の映画で示される「人質交渉人」のテクニックは是非学ばなければならないと考えている私は、仕事として(?)これらの映画を観てきた。

日本では「人質交渉人」を主人公として登場させたのは多分この映画がはじめて……？ この映画では、警視庁刑事部の中に交渉課準備室が設けられているが、時代が複雑化し物騒な事件が多発している現在、ホントにこの手の部課を新設する必要があるのでは……？ もっとも現実には、既にあるのかもしれないが……？

### ちょっと安易な企画では……？

この『交渉人 真下正義』の構想が浮かんだのは、言うまでもなく『踊る大捜査線 THE MOVIE』(98年)とそのパート2である『踊る大捜査線 THE MOVIE 2 レインボーブリッジを封鎖せよ』(03年)の大ヒットから。つまりこ

の2作品の大ヒットによって『踊る大捜査線』の登場人物たちのキャラが明確になったため、その中の脇役を一人立ちさせて主人公にしても十分面白い映画ができると考えたわけだ。

私は残念ながら『踊る大捜査線』はパート1もパート2も観ていない。それは、大ヒットしていることは知っていたものの、どうもこの手のマンガチックな映画(?)はあまり好きでないため。

したがって『踊る大捜査線』1・2における真下正義のパーソナリティがどんなものかはよく知らないが、パンフレットによれば「ニュートラルでフラットなポジションにいた」「頭の出来はいいが、のほほんとしていて、ちょっと笑える愛すべきキャラ」と書いてある。しかし、この映画では彼が主人公になるのだから、もっと違ったさまざまな面も……。

『交渉人 真下正義』に続いて、8月27日には『容疑者 室井慎次』も公開されるが、これは真下の上司である刑事部捜査一課管理官・警視正の室井慎次(柳葉敏郎)にスポットライトをあてたもので、どうも室井が容疑者になるらしい……? しかし、この手の続編を次々とつくるのはちょっと企画が安易すぎるのでは……?

## 登場人物のキャラは明確だが……

主人公真下正義のキャラは『踊る大捜査線』1・2では前記のとおりらしいが、主人公となった今回はやはりそれなりに(?)頭の回転も早く、決断力もあり、事件を解決に導く手際はさすがお見事! もっとも、そういう脚本にしなければこの映画は成り立たないのだが……? そんな真下を映画初主演となるユースケ・サンタマリアがそれなりに演じているが、その魅力は果たして……?

真下以外の主要な登場人物は、「総合指令室側」は、総合指令長の片岡と「線引屋」の熊沢鉄次(金田龍之介)そして広報の矢野君一(石井正則)。他方、「警視庁側」は、ヤクザと見まちがうばかりのひどくガラが悪いキャラの木島丈一郎刑事(寺島進)。これらの人物のキャラはそれぞれ明確だが、それは逆に言えば、無理矢理つくっている感じ。したがってあまり自然味がないと私には思えてならないが……?

## 優秀な CIC ルームのスタッフたち！

電話で連絡してくる犯人と「交渉」するのが真下の役割なら、その声紋を分析したり、断片的な会話の中から真下が指示する情報をインプットして分析するのがCIC（セントラル・インフォメーション・センター）ルームの仕事。6人で編成されるこのチームの小池茂係長を演ずるのが小泉純一郎総理大臣の長男の小泉孝太郎だが、これはあくまでチームとしての作業なので、彼もチョイ役。しかし映画で観る限り、このCICルームの優秀さは明らか。

もっとも、現在の警視庁がホントにこんなスピードで情報の分析ができているのかについては疑問なしとしないが……？

## 不明確な犯人像

これに対して、電話からしか聞こえてこない犯人の人物像は不明確……。

犯人の挑戦状(?)は、「真下警視、出ておいで。一緒に地下鉄走らせようよ。弾丸ライナーより」というもの。果たしてこの弾丸ライナーとは誰？そして犯人の要求は何？単なる交渉人真下正義との知恵比べだけ……？

クリスマス・イブの今夜コンサートが開かれる新宿のシンフォニーホールで、真下が来るのを1人待つ柏木雪乃（水野美紀）の身に危険が……？そこで演奏されるラヴェル作曲の『ボレロ』は一定のリズムを刻みながら静かな音から次第に大きな音に……。この演奏の指揮をするのはどことなく怪しげな雰囲気の前主十路（西村雅彦）。そして、ティンパニーがとどろきわたるラスト近くになると一体何が……？

## 水野美紀はなぜかチョイ役……？

湾岸署の刑事課強行犯係で今やクリスマス・イブの日に真下とデートするほどの仲になっているのが、柏木雪乃。美人女優大スキ人間の私としてはかなり期待していたのだが、この映画の中ではホントにチョイ役なのでちょっとガッカリ。次回作の『容疑者 室井慎次』に続いて、今度はこの水野美紀を主役に抜擢して面白い映画をつくってくれたら、必ず観に行くのだが……？

## 映画鑑賞後に列車脱線事故が！

犯人は遠隔操作によって「クモE4-600」を自由に操っているらしい。そして問題は、この「クモE4-600」に爆発物が搭載されているのか否かということ。さらに、その最終の行き先は？ 映画最初の見せ場(?)は、犯人の遠隔操作によってワケのわからないまま停車したこの「クモE4-600」に後続車両が「あわや追突！」というスリリングなシーン。急ブレーキをかけた後続車の乗客は当然パニック状態に……。さらに後半にも、この「クモE4-600」の暴走に伴う地下鉄車両の暴走やパニックシーンが次々と……。一体犯人は、何を要求して何のために「クモE4-600」を遠隔操作しているのか？

そんな憤りをもってこの試写を観終わり、事務所に戻って夕刊を見ると、その一面には何とJR西日本の列車の脱線事故の大ニュースが。こりゃ大変だ。この原稿を書いている翌4月26日には、その悲惨な被害の全貌が明らかに……。

こりゃ、ひょっとすると、東京の地下鉄やその乗客をパニックに陥れる映像をふんだんに盛り込んだこの映画の公開はやバくなるのでは……？

2005(平成17)年4月26日記

### ミニコラム

#### JR 脱線事故と損害賠償

2005年4月25日のJR福知山線脱線事故は、JR西日本のスピード重視と安全軽視という問題点をさらけ出した。他方で脱線事故に伴う損害賠償問題が浮上。その1は列車内の死者や重軽傷者に対するもので、その2は列車によって大破させられたマンションの住人に対するもの。前者は、交通事故の損害賠償基準を基に加害者が公共交通機関であることや、「死の恐怖」な

どを慰謝料の加算要素としてどこまで認めるかが焦点。後者は、減価償却を考慮せず購入価格での賠償というJR西日本からの提示を住人たちが納得せず、攻防戦はこれから。公共交通機関による一方的な加害事故における損害賠償のあり方は重要なテーマ。私も弁護士としての1人としてそれに貢献しなければ……。

2005(平成17)年7月12日記